平成３０年度第２回京都市図書館協議会摘録

○日　　時：平成３１年３月１日（金）
　　午前１０時００分～１２時
○場　　所：京都市生涯学習総合センター　５階第６研修室
○出席委員：［１０名中６名出席］
　　石川　一郎　委員
　　岩崎　れい　委員
　　郭　　昊　　委員
　　梶川　敏夫　委員
　　河本　歩美　委員
　　鈴木　美和　委員（五十音順）
○欠席委員：岩佐　恭子　委員
　　谷　　武彦　委員
　　矢野　保美　委員
　　山野　修平　委員（五十音順）
○傍 聴 者：０名

１　開会
（１）　中央図書館長の挨拶
・　京都大学総長をお勤めになった長尾真さんの文化勲章受章を記念した祝賀会に出席した際，長尾真さんが研究される情報工学というものについて考えるところがあった。
・　ＡＩの発達を見据えた情報工学というものが長尾真さんの中心課題だと思うが，その一つの考え方として「意味素」（いみそ）という言葉があった。意味というものを素に還元するところに，ディープラーニングにつながる言葉の理解のプロセスがあるようである。
・　これは私ども図書館のひとつの大きな目標として，見据えなければならない考え方のように感じた。言葉の塊を素に分解して考え，読み取り，使いこなせれば，大きな新しい世界が開けると思う。
・　本日協議していただく事柄も，「読書」とは何か，そこから何が得られるのかという話になると思うので，冒頭の挨拶に当たり，このような話をさせていただいた。本日も熱心な議論をお願いしたい。

２　報告事項
事務局から，資料に基づき，以下の項目について報告した。
（１）平成３０年度子ども読書の日記念事業について
ア　０歳からの絵本コンサート
昨年度から堀川音楽高校と連携して４つの中央図書館で実施している乳幼児とその保護者を対象とした取組である。技術力の高い堀川音楽高校の生徒の演奏と，京都市図書館司書の読み聞かせの相性が非常に良く，利用者に大変人気がある。本年度は，前年度から倍増した６９５名の参加者があった。

参加者からは「子連れではなかなかコンサートにいけないためありがたい」という声を毎年いただいている。

また演奏をした生徒からは，「普段の静かな環境とは異なり，赤ちゃんの泣き声やリズムに合わせて身体を反応させる姿など，聴衆を身近に感じながらの演奏は非常によい経験となった」という声が寄せられている。

イ　子どもの本のブックリサイクル

子どもの本に特化したブックリサイクルである。準備した７２１冊の内，６～７割を「絵本」で揃えている。

事業を開始した平成２８年度の参加者数１４３人に対し，本年度２８８人に倍増するなど，着実に参加者数を増やしている。

当日会場が多くの人で混乱する場面もあったため，安全面の確保を次年度に向けた課題と考えている。

（２）平成３０年度読書週間記念事業について

ア　「京のわらべうたいっしょにうたいまひょ」原画展

京都のわらべうたを次の世代に継承する活動をされている三上啓子さんと絵本作家のふしはらのじこさんが共同で昨年４月に出版された絵本「京のわらべうたいっしょにうたいまひょ」の原画展を京都市子ども文庫連絡会との共催で開催した。

原画展の会場ではわらべうたのＣＤを流し，来場者にお聞きいただきながら，原画を御覧いただいた。

また期間中，ふしはらのじこさんのギャラリートークやわらべうたを体験する催しも実施した。

参加者からは「京都のわらべうたは初めて聞くが，聞いていると懐かしい気持ちになる」など，感想が多く寄せられた。

イ　第３回京都市図書館ビブリオバトル大会異世代交流戦

ビブリオバトルは，参加者が自分のお気に入りの本を５分間紹介し，一番読みたくなった本に投票するゲーム感覚の書評合戦である。

４つの図書館で予選会を実施し，小学６年生２名，中学１年生１名，中学２年生１名，大人１名の計５名で中央図書館において１１月４日に決勝戦を行った。

チャンプ本には，中学２年生が紹介した「僕は君を殺せない」というホラーミステリーが選ばれた。

近年，中高生が本を読まないと言われているが，「身近な人から紹介される本なら読んでみたい」という声も上がっており，今後も実施していきたいと考えている。

ウ　司書の相棒　～便利で楽しい辞書・事典の世界～

京都市図書館の司書がとっておきの本を紹介する催しである。今回は意外に知られていない辞書・事典の魅力を紹介した。

エ　読書絵はがき展

読書週間記念事業を始めた平成１４年から継続している事業で，小学生を中心とする子ども達が自分のお父さんやお母さんに薦めたい本を「読書絵はがき」という形で紹介している。

今回初めて不登校の子ども達が集う施設から参加いただいた。「自分の想いを絵はがきの形で表現し，知らない人に読んでもらうことが社会に繋がる大切な第一歩である」との考えを基に参加を決めたとのこと。

（２）平成３１年度子ども読書の日記念事業について

ア　０歳からの絵本コンサート

利用者から評判の高い事業であり，堀川音楽高校と話し合いを行い，来年度も引き続き実施することが決まっている。

前年度から楽器の種類も増え，これまでのバイオリンやフルート以外にも，マリンバ・コントラバス・鍵盤ハーモニカなどが加わる予定である。開催日時は，４月２０日（土）午前１１時３０分からを予定している。

イ　子どもの本のブックリサイクル

昨年度は中央図書館前のピロティが会場であったが，先程報告した会場の混乱以外にも，天候に左右されるという課題もあり，来年度は室内の京都アスニー３階の会議室で実施する予定である。

当日青い鳥号を駐車したり，整理券を配布したりするなど，ピロティでのイベント周知にも力を入れる予定である。

ウ　本のもりコーナー（ＰＲ事業）

ブックリスト「本のもり」については，各館にコーナーを設け，周知に努めているところであるが，掲載本を各館の行事で積極的に取り入れる等，一層ＰＲを進めて行く予定である。

エ　その他の取組

京都市子ども文庫連絡会の方や地域でボランティア活動をされている方の協力を得ながら，おたのしみ会等の取組を各館で実施する。

（３）京都市図書館の平成３０年度の取組状況について

ア　図書館設備の改修等について

（ア）あんしん・かいてき図書館トイレ整備事業

平成２６年３月に策定された「第３次京都市子ども読書活動推進計画」に基づき，子どもたちが使いやすいトイレにするため，５か年計画で洋式化等のトイレの整備を順次進めて来ており，最終年度の今年度は，左京図書館・久世ふれあいセンター図書館で整備を実施した。

（イ）　地域図書館の児童コーナー整備事業

乳幼児連れの保護者に気兼ねなく図書館に来ていただけるよう，「第３次京都市子ども読書活動推進計画」に基づき，地域図書館１４館の児童コーナーの改修を順次実施して来ており，今年度が最終年度となる。

左京図書館では，床の全面更新や行事の際の雰囲気づくりを目的としたカーテンの設置を平成３１年２月に実施している。

同月に醍醐図書館でも，床の全面更新，ティーンズコーナーのための書架の増設，児童向けの行事告知用の掲示板の新設を実施した。

久我のもり図書館では，現在の老朽化した床のカーペットのコルクタイルへの張り替えや，ロールスクリーンの更新，書架の増設を３月中に実施する予定である。

（ウ）利便性や安全性の向上に関する主な取組等

平成２９年１１月１０日から試行実施して来た京都府立図書館と京都市図書館の相互返却サービスについては，順調に利用冊数が増えており，一定需要があると判断されたため，昨年の平成３０年１１月から名称を「返却資料お預かりサー

ビス」に変更し，本格実施している。

イ　出前事業専用車両「青い鳥号」の利用状況

図書館用に改造した軽ワゴン車「青い鳥号」を活用し，学校に出向いて事業を実施したり，植物園フェスタ・ＰＴＡフェスティバル・保育フェスタなどのイベント会場に出向いて読み聞かせや貸出などを実施したりしている。

本年度は，平成３１年２月末現在で８６回実施しており，昨年度の年間８８回を上回る見込みである。

ウ　各館の取組について

（ア）右京中央図書館開館１０周年記念事業

市内４番目の中央図書館館として設置された右京中央図書館は，平成２０年６月３０日の開館以来，昨年１２月末現在で入館者総数７００万人，資料の貸出点数は１，４００万点以上に上っている。本年度１０周年を迎え，記念事業の取組を進めて来ているが，そのいくつかを報告する。

ａ　中西館長記念講演会「人はいつも旅人～あなたの明日は図書館から始まる～」

開館記念日と言える６月３０日に中西館長による記念講演会を実施した。

ｂ　おたのしみ会「のりものいっぱい！しゅっぱつしんこう！」

交通局に制服や被り物の協力をいただいたり，ボランティアに鉄道模型のイベントの協力をいただいたりしながら，「のりもの」をテーマとしたイベントを１０月２７日に実施した。

子どもだけでなく，大人もたくさん来られ，鉄道に関する専門的な質問にもボランティアの方に対応いただいた。

ｃ　企画展示「今，伝統文化「歌舞伎」の世界へ」

松竹芸能の協力をいただき，歌舞伎のポスターや台本等，歌舞伎に関する展示を１２月２０日から１月１２日にかけて実施した。

南座がリニューアルしたタイミングでもあり，普段なかなか見ることができない資料を御覧いただけるということで，多くの方々に御参加いただいた。

ｄ　文化講演会 中西進館長講演会 アフタヌーン・トーク

恋する万葉びとスペシャル「万葉人大いに笑う」（１２月９日）

例年実施している「万葉集」に関する中西館長の講演会を，テーマを変えて実施した。

ｅ　特別資料展示「右京探訪と右京中央図書館」（２月２５日～３月１０日）

「右京」をテーマに写真や資料を展示したり，右京中央図書館が力を入れている「レファレンス」をテーマにどのような観点で調べていけばよいのかを示した展示を行ったりしている。

ｆ　開館１０周年記念「ブックカバー」の作成

年間を通した取組として，３種類のブックカバーを作成し，記念事業の中で配布している。

以上のような記念事業については，右京中央図書館をはじめ京都市図書館を多くの市民に知ってもらい，利用してもらうことを最終的な目的として，広報に力を入れながら取り組んで来た。

右京中央図書館には，京都大百科構想に基づく約４万点の京都関連資料の所蔵，京都市図書館のレファレンスサービスの統括館，約２万１千点の視聴覚資料の所

蔵，テラスルーム・畳付スペース等の施設設備といった特徴があるが，このような特徴も含めて，１０月３０日付の毎日新聞の全国版でも，中西館長へのインタビューという形で館の紹介をしてもらうなど，積極的に情報発信を行っているところである。

（イ）左京図書館開館４０周年記念事業

昭和５３年に開館した左京図書館は，今年度，開館４０周年を迎え，記念行事を行って来たが，その中の小冊子「京都・左京文学散歩」の発行について報告する。

「京都・左京文学散歩」は左京区が舞台となった文学作品を集めたＡ５版のカラー刷りの冊子で，新しい文学作品との出会いや，今まで気づかなかった左京区の魅力を知っていただけるように，作品ごとに書影とあらすじ，舞台になった場所の写真と書評等を掲載している。

平成２９年１１月に初版を作成した際，利用者に大変好評であったため，４０周年記念にあわせて，５４作品を掲載した改訂版を発行した。

（ウ）久世ふれあいセンター図書館開館２０周年記念事業

平成１０年に開館した久世ふれあいセンター図書館は，本年度開館２０周年を迎え，地域の伝統文化を知ってもらう取組を，地域の方々と共に実施して来た。

「久世の六斎念仏」の公演や，「久世のむかしばなし」の朗読，「祇園祭と久世駒形稚児」についての講演，その他原画展や福袋など多彩な事業を実施した。

（エ）伏見中央図書館　第１回中学生おすすめ本ＰＯＰコンテスト２０１８

地元の伏見中学校の１年生等に本のＰＯＰを作成してもらい伏見中央図書館で展示。利用者の投票で優秀作品を選び，表彰するという取組である。

伏見中学校１年生の２３４点の他，職場体験という形で伏見中央図書館へ来た中学２年生の２０点の応募があった。

読書感想文を書くのは荷が重い中学生も，ＰＯＰについてはハードルが低いようで，それぞれの感性や得意分野による力作が揃った。

中学生自身にも図書館へ投票に来てもらう狙いであったが，期待したほどの来館はなく来年度に向けた課題と考えている。

（オ）本のもりＰＲ事業（ジュンク堂との連携事業）

京都市子ども文庫連絡会をはじめとした子どもの読書活動を推進する様々な団体と京都市図書館で，年代別おすすめ本のリスト「本のもり」を作成しているが，この「本のもり」に関して，ジュンク堂書店と連携した取組を実施した。

平成３０年９月２１日（金）から１０月２２日（日）まで，ジュンク堂書店５階の児童書売り場で実施。特設コーナーを設け，「本のもり」の紹介，掲載本の展示，図書館でのベストリーダーや書店でのベストセラーの表の掲示などを行った。

京都市図書館でのアンケートによると，選定に力を入れている割に，市民への周知度が今一つの結果であるため，その普及を図ることを目的に実施しているが，この連携にはもう一つ大きな目的があった。

現在の出版不況の中，本の売れ行き不振の原因が図書館の貸出サービスとされる論調がマスコミ等で時々見受けられる。しかし，出版業界・書店・図書館は，本来，本を多くの人に届けたいという想いで一致しているはずであり，本の文化を広げて行くところで繋がることができるはずだという想いが以前からあった。

書店と図書館とが相対する状況を打破し，書店と図書館の新しい関係を提示することも今回の連携のねらいであった。

１ヶ月間実施した結果を書店員に確認したところ，前年同期と比較し，児童書の売り上げが１０パーセント伸び，本のもり関連の本も期間中１００冊ほど売れたとのことであった。児童書の中では古典と言われる比較的読み応えのある本も売れているとの報告も受けている。

「図書館にある本って書店で売っているんだ」という来店者の感想もあったそうで，図書館を利用する層と書店を利用する層とは，繋がっているようで，意外と違う層なのかもしれないとの印象を受けた。

「近年，人気のある本の情報をインプットされ，その本についてだけ尋ね，購入して帰られる方が多い中，期間中，じっくり本を手に取って御覧になられているお客さんを久々に見て嬉しかった。」という書店員の感想もお聞きしている。

今回の書店との連携については，出版社から書店へ問い合わせがあったり，書店向けの新聞でもとりあげられたりしており，図書館向けの情報を提供している国立国会図書館のカレントアウェアネスというサイトでも，この取組が紹介され，様々な記事の中で一時期アクセス件数がトップになっており，出版・書店・図書館関係者の興味関心を引く取組であったようである。

書店員との間で今後の出版業界・書店・図書館の連携について話したところでは，絶版の本の人気についての情報を図書館は持っているので，そのような情報を出版業界に伝え，復刊を目指すなどの関わりも可能ではないかという意見も出ていた。

（４）平成３１年度新規事業等について

ア　京都市図書館による高校生の読書活動支援の推進

子どもの読書活動推進に向けた取組は，平成１３年に成立した「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づいて，５年ごとに見直しながら進めてきている。小学生や中学生については取組の成果もあり，不読率は改善傾向にあるが，高校生については，全国的に取組の成果が表れておらず，京都市においても同様な状況である。

高校生がもっと本を読むよう，もっと図書館を利用するよう，京都市図書館１館と京都市立高校１校が連携し，高校生の読書活動を推進する取組について研究し，実践していくことを考えている。

イ　子どもの本コンシェルジュ養成講座

京都市図書館司書等を対象に，外部から講師を招いた研修を実施し，子育て中の保護者への啓発や子どもたちが本にふれあう機会を創出することができるよう，児童サービスを担う職員の育成・資質向上に取り組んで行く予定である。

ウ　ブックリスト「本のもり（幼児編）」の３歳児への配布

現在，「ブックスタート事業」において，８か月健診の際に，赤ちゃんを対象とした取組を進めているが，読書習慣のさらなる定着を目指して「本のもり（幼児編）」を３歳児全員に配布して行く。

エ　乳幼児保護者用読書ノートの配布

子どもの成長とともに，その時々の子どものお気に入りの本やその時の様子など，読書の記録が残せる「乳幼児保護者用読書ノート」を，現在，ブックスタート事業

や図書館内で配布しているが，好評につき，第３次計画に引き続いて作成・配布する予定である。

（５）第４次京都市子ども読書活動推進計画の策定状況について

来年度から５年間の子ども達の読書活動を推進する指針となる「第４次京都市子ども読書活動推進計画」を，学術経験者や読書団体等で構成される同計画の策定会議において，現在，策定中である。

第３次計画までの取組状況や読書に関する児童・生徒へのアンケート結果等を踏まえ，３回の策定会議を経て作成された計画案について，１２月２７日から２月３日までの間，市民へ意見募集をしたところ，４００件を超える意見があった。

今後，市民の意見を踏まえて２月２８日に実施した第４回の策定会議の内容を取りまとめ，３月中には計画が発表される予定である。

３　報告事項に関する質疑応答

意見　平成１３年にできた「子どもの読書活動の推進に関する法律」について詳しく聞きたい。

回答　子どもの読書活動の推進に関する基本理念を定め，子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し，子どもの健やかな成長に資することを目的とした法律である。

同法成立後，５年毎に改正される国の「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」に基づき，国及び全国の地方公共団体において，子どもの読書活動に関する施策が総合的かつ計画的に進められているところである。

４　協議事項

今期２年間の京都市図書館協議会の総括として，これまでの協議を行って来た「図書館の利用の少ない中学生・高校生・大学生への取組」「シニア層に対する取組」「司書の専門性を活かす取組」「多文化サービス」の課題を含め，委員が特に重要であると考える事柄を中心に，以下の議題で協議を行った。

「多くの市民から愛され，利用される図書館となるよう京都市図書館に大いに望むこと」

（大人を対象とした取組・親しみをもってもらうための取組など）

意見　今年は天皇陛下が退位され，新しい天皇が誕生するが，それに関連する取組は予定しているか。

回答　天皇陛下御在位三十周年式典が挙行された平成３１年２月２４日の前後の時期に，４中央図書館において，皇室関連図書等の展示を実施している。

来年度も様々な式典等に合わせた取組の実施を検討している。

意見　高齢者に関する取組については，館の特性や地域性を踏まえ，各館のアイデアにより実施している部分はあると思うが，新聞で掲載されている醍醐図書館の回想法のような取り組みが全館で出来ればよいと思うし，全館で可能となる仕組みがあればよいと思う。

また，右京中央図書館の取組で，専門的な知識や技術を持たれたボランティアの方が，その力を活かした活動をされているとの報告があったが，そのようなことが活発になるとよいと思った。

図書館に求められる役割として，子どもの読書離れ対策に重きを置く部分があると思うが，高齢者が活躍できたり，安心できたりする場という視点も大切にして，高齢者の居場所づくりにも取り組んで欲しい。

意見　京都市の図書館を利用させてもらい良いと思うのは，どの京都市図書館からも資料を取り寄せできることである。多くの本を必要とする場合などは大変重宝する。このような取り組みは意外と知られていないと思うので，自宅のパソコンで予約できるなど，もっとアピールした方がよい。

意見　絶版した本などなかなか入手できない本が図書館にあるとありがたい。手に入らないものが図書館に行けばある。そのような安心感も図書館の存在意義であると思う。

回答　絶版になったものでも，利用者から読みたいとリクエストがあった場合，古書店を活用し，購入できるものは購入している。

また，書店で入手できない場合も，図書館は相互貸借サービスを実施しており，所蔵している他の自治体の図書館を探し，貸出のために取り寄せることも実施している。

納本制度により国立国会図書館はあらゆる本を所蔵しているので，個人貸出はできないが，窓口で相談いただいたら，国立国会図書館から取り寄せることも行っている。

意見　報告によると子どもを対象とした取組には力を入れているようであるが，本好きの大人に向けた取組ももう少し工夫ができると思う。

週末になると新聞各紙に書評が出るが，書評欄を活用してみてはどうか。本屋との連携の報告があったが，新聞との連携も面白いと思う。書店ではよく書評を活用している。

意見　他館からの本の取寄せについては，随分以前からネットワークが出来ているので，図書館サイドは当たり前と思っている一方で，利用者サイドは意外と知らないので，上手にＰＲしていく必要があると思う。

書評については，各紙結構沢山載っているので図書館で借りることも多いと思う。大人だけでなく，高校生・大学生にとっても本を読むきっかけになるかもしれないと思う。

意見　２～３年程前から京都市内のバスや鉄道で中国語，韓国語，英語などの表記を見かけるようになったが，図書館はまだ日本語表記しかない。これでは日本語の分からない外国人は利用できない。

図書館は文化の顔という一面があり，京都の文化を発信する役割があると思う。

利用がないから整備しないのでなく，外国人が利用できるような整備をまず行い，京都の文化を発信していくことが大切であると思う。

意見　人手もお金もないことが多文化サービスの進まない原因であると思うが，外国語表記については，京都市内に多くある大学等に協力してもらえばお金を掛けずにできるのではないか。ただ外国人の利用したい蔵書がなければ利用されないと思う。

意見　区役所でも年輩のボランティアが案内などを行っているし，言語が堪能なボランティアに案内をしてもらうのはどうか。

意見　レファレンスサービスなどの高度なサービスでなくても，普通の日常的な話してくれるだけで外国人の利用者は助かると思う。「どのような本が配架されているか」「トイレはどこか」程度の案内ができるボランティアがいれば十分だと思う。

意見　ある程度整理されればボランティアでも可能かと思うが，事前にそれなりの研修を行う必要があると思われるし，ボランティアを置くこと自体の難しさというものもあ

ると思う。実施するならアルバイトの方がよいのではないか。曜日を限定して経費を抑える方法もあると思う。実施するのであればきっちりとした形で始めたほうがよいと思う。

また，館内の案内が外国語であっても資料がなければ結局利用されないと思う。その辺りも併せて考える必要がある。

京都の場合は留学生や観光客が多いと思うので，それに合わせた整備が必要になるだろうと思う。観光客は一般的に博物館等に行かれ，図書館には来ないと思うので，留学生が必要としている資料があって初めて来てもらう意味があると思う。

今後，観光客が行ってみたい図書館になってもよいという気はするが，予算がないと資料も揃わないのですぐには難しいと思う。

多文化サービスは出発点から多くの課題があると思われる。

回答　所蔵資料の問題もありなかなか進まない多文化サービスであるが，利用案内については，京都市図書館のホームページで英語版・中国語版・韓国語版を公開しているところである。

回答　英語やその他の外国語の本の所蔵が無いわけではないが，多言語サービスに対応できる資料を揃えるというのは予算の問題もありなかなか難しい状況である。

意見　国際交流会館の資料を活用できないか。

回答　国際交流会館は資料の個人貸出を行っていないため，京都市図書館を通じて貸し出しはできない。

ただし，京都市図書館が所蔵していない外国語の資料を求められた際には，レフェラルサービスというものがあり，利用者の希望に沿えるよう，必要とする資料が利用できる他の施設を紹介することも行っている。外国語大学の大学図書館ならそのような資料を持っていると思うので，利用できるよう紹介状を書く等の橋渡しをする取組を行っていきたい。

回答　ニーズは少ない気もするが，外国の観光客用に英語のガイドブックを各図書館に置いていくことも検討したい。

意見　視覚に障害のある方が利用されるデイジー（ＤＡＩＳＹ）図書を作成するために読み上げボランティアを行っている方が，デイジー図書を借りられないと言っていたのだが，その件で問い合わせをするならどこになるか。

回答　デイジー図書については，視覚に障害のある方に限定して中央図書館を窓口にしたサービスを実施している。問い合わせ先は中央図書館となる。

意見　中学生・高校生・大学生，高齢者，外国人，障害のある方など図書館のサービスも多岐に渡らなければならないところに来ていると思う。すべての人に資料を提供することが図書館の大切な使命であり，サービスも対象に応じて工夫していただきたい。

意見　高齢者に関する問題を含め，今後も様々な分野の方の意見が入ってくる会議にしていただければよいと思う

５　事務連絡

６　閉会